



リーダーの思いは伝わっているか

先月、特別支援学校の校長先生方が開催する全国規模の研究大会に参加しました。大会では、第5回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）日本代表監督の栗山英樹氏が講演されました。ダルビッシュ投手の参加の同意を得るために苦勞したこと、大谷選手のストイックな性格と徹底した目標管理など、テレビやネット上の情報では知り得ないエピソードも交えながら、「チームをまとめるマネジメント」について話され、あっという間に時間が過ぎていきました。

お話の中で、最も印象的だったのは、日頃から、「自分の思いが選手にきちんと伝わっているか」ということに留意されていたことです。栗山監督ほどの名将であれば、発した言葉はすぐに選手に浸透し、その実現に向けてチームが一丸となって突き進むのではないかと考えていましたが、現実はかなり違うようです。選手に自分の思いを伝え、笑顔で「はい！」と返されて安心していたところ、実際はほとんど伝わっていないことがあったようで、反応がよかったときほど気をつけないといけない、苦い経験を振り返っていらっしゃいました。

自分の思いを浸透させ、人を動かすためにどのようなことに留意して伝えたらよいのでしょうか。栗山監督は、講話の随所で次のようなことを紹介されていました。①夢のあるゴールイメージを共有できるようにすること。②ストーリー性を大切にすること。③一人一人の性格を理解し、それに応じた伝え方を工夫すること。④適切な場面やタイミングで繰り返し伝えること。⑤熱意をもって真心を伝えることです。

このことは、学校はもとより、当研究所も含めた様々な組織のリーダーが、共通におさえておくべきことであります。自分は夢のあるビジョンやわかりやすい方針を示しているだろうか。それには自分の熱い思いや真心が込められているだろうか。年度初めと途中の1、2回の形式的な説明のみで伝わったと思っていないだろうか。熱意を持って繰り返し伝えているだろうか。自戒を込めて講話を拝聴していました。

間もなく、今年度は折り返し地点を迎えます。この節目を自身の考えや行動を見つめ直す好機としてとらえ、今一度、ビジョンや方針、自身の教育理念、重点などの確認や調整を行うとともに、豊富な経験に裏打ちされた栗山監督の御示唆を紐解きながら、「職員への浸透」に努めてまいりたいと考えています。